



長門の話題 Topics

各地区でふるさとまつりが盛況

豊かな長門の秋を味わう

今年も爽りの秋を迎え、長門のグルメやイベントが楽しめるふるさとまつりが各地区で開催されました。「みすみ燃ゆるさとまつり」は10月19日(日)に開催。来年度のNHK大河ドラマ「花燃ゆる」にちなむ「燃ゆるリンポー」が初めて行われ、体の柔軟性を競いました。



▲みすみ燃ゆるさとまつりで初めて行われた「燃ゆるリンポー」



▲ふるさとまつり in ゆやでは、じゃんけん大会でも盛り上がる



▲日置ふるさと祭りでは、恒例のジャンボのり巻きに今年も挑戦

11月2日(日)に開催された「ふれあいふるさとまつり in ゆや」では、市民によるパフォーマンスやマグロ解体ショーが人気を集めました。翌週の11月9日(日)に開催された「日置ふるさと祭り」では、恒例のジャンボのり巻きのほか、まつたけ狩りゲームも行われました。

下関市・長門市両市長会談を俵山で開催

絆を強め、一層連携したい

平成の大合併により、隣接することになった下関市と長門市が連携を深め発展につなげようと始まった「両市長会談」が、11月11日(火)、俵山温泉閣で行われました。この会談は、今回で10回目。約1時間、両市長は会談を行いました。そして、記者会見では、会談で合意した内容を両市長が発表しました。

第一に、「らーじくん」を利活用しながら、両市の「くじら文化共同事業」を進めること。また、下関市で取り組む鯨肉普及の推進のための鯨肉公益枠の拡大について、両市で歩調を合わせて国に要望していくこと。第二に、J R 山陰本線の利用促進のため、企画列車の運行に継続して取り組むこと。また、山陰自動車道「長門・下関間」の国・県への要望活動をさらに強化し、来年の夏をめどに長門市で総決起大会



▲記者会見に臨む中尾下関市長(左)と大西長門市市長(右)

を開催すること。第三に、油谷湾に整備された育成礁へキジハタを両市が放流し、この資源の増加に取り組むことと、アワビの中間育成の技術的交流や情報交換を密に行うこと。両市長は「絆を深め連携を強化していきたい」と話しました。

長門市から「NHKのど自慢」

合併10周年を記念して開催

10月26日(日)、ルネッサなごでNHKのど自慢が行われました。これは長門市合併10周年を記念して行われたもので、前日の予選会に約250組が出場し、この中から勝ち残った20組が本番に出場しました。観覧者約800人で埋め尽くされた会場では、出演者と会場

が一体となり盛り上がりました。中には、応援のためのうちわの飾りや横断幕を準備する観客もおり、自分の知人が歌う順番になると、歌に合わせて振っていました。ながとふるさとまつりの会場でもLED車で生放送され、注目を集めました。



▲生放送された番組のフィナーレのようす

厚生労働大臣表彰

長年、国保の運営に貢献

10月30日(木)、長門市役所で「平成26年度国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰」伝達式が行われました。伝達を受けたのは油谷地区の歯科医師、重田耕一さんと、長門市国民健康保険運営協議会の委員を長年務めたことが認められ、今回の表彰となりました。



▲表彰状を伝達された重田さん(右)

滝坂神楽舞

未明まで続く伝統の舞

11月2日(日)、三隅上の黄幡社で滝坂神楽舞が行われました。今から約280年前の明和年間、3年連続で大飢饉があり、氏子が厄払い祈願の舞を奉納したところ以前通りの平和な村になったことから、氏子はそのお礼に毎年秋に滝坂の黄幡社で神楽舞を奉納する

ようになりました。神楽舞の演目は24種類で、手を振り上げ体をくるくる回して舞う特徴があります。今年も足均(あしならし)の舞から始まり、20の舞が奉納されました。翌3日の1時すぎにすべての舞が無事終了しました。



▲お面を使った舞もある滝坂神楽舞

油谷川尻の恩崎海岸で清掃

住民が協力し海岸を守る

10月25日(土)、油谷川尻の恩崎海岸で海岸清掃が行われました。恩崎海岸は、海流の影響でたくさんゴミが海岸に押し寄せて来るため、川尻東西自治会の住民が協力して5年前より海岸清掃を行っています。参加者は手分けして漂流したゴミを拾っていました。



▲地域住民約120人が参加した

レベルアップし、力作揃う

10月25日(土)、第16回香月泰男ジュニア大賞絵画展の表彰式が香月泰男美術館で行われました。これは、戦後日本の洋画界を代表する画家、香月泰男の業績を称え、児童・生徒の大きな心の育成と自分らしさを表わす力の向上を目指そうと開催されています。

「花を描こう」というテーマで行われた絵画展には、全国から1,097点の応募がありました。

表彰式の後、審査員長で日展評議員の竹内浩一さんが「年々レベルが上がって魅力ある作品が増えている」と述べ、作品を総評しました。



▲ジュニア大賞は山口市の藤本恭子さん（前列左から3番目）

あつまれチビツ子大うんどうかい

子育ての輪づくりを楽しむ

11月10日(月)、ルネッサなごとで「あつまれチビツ子大うんどうかい」が開催されました。これは、子育て輪づくり活動の一環として、乳幼児をもつ母親同士の交流を図ることを目的に長門市母子保健推進協議会が主催したもので、保護者105人、子ども102人の計207人が参加しました。

全員でアニメの音楽に合わせて準備運動をした後、はいはいゲームやダンボールぬけゲーム、キヤタビラーゲームなどを楽しみました。このほか保護者が参加するパン食い競争が行われ、全員が楽しめる運動会となりました。



▲ダンボールぬけゲームは元気にハイハイをして抜ける

みすゞさん・さん交流会

みすゞがつなぐ児童の交流

10月23日(木)、下関市の文閑小学校と長門市の仙崎小学校の児童が毎年交互にお互いの学校を訪れ交流する「文閑・通・仙崎みすゞさん・さん交流会」が、仙崎小学校で開かれました。

両校は長門市・下関市共通の文化人「金子みすゞ」を通じて交流を深めました。

した交流を進めており、平成23年度から始まりました。文閑小学校からは5年生86人、通小学校からは5・6年生10人、仙崎小学校からは全校児童269人が参加し、学習発表やコーラス、みすゞ通りを果たしたウォークラリーなどを行って交流を深めました。



▲両校の児童と一緒にみすゞ通りをウォークラリーで歩いた

成長し、創生するためには

11月6日(木)、市内の旅館で、ながと成長戦略検討会議委員の立石裕明氏による講演が行われ、関係者約50人が参加しました。長門市が推進している成長戦略と国の進める地方創生をどのように発展させ、地域や中小企業がどう取り組めばいいのか講演しました。

▲中小企業の生き残り策について話す



第10回図書館まつり

図書館の魅力を味わう

11月3日(祝)、長門市立図書館で「第10回図書館まつり」が開催されました。人気の古本市は、早朝から本を購入する人が列を作りました。

館内では、読み聞かせやかみしばい、おりがみも行われ、図書館の魅力を満喫する姿があちこちで見られました。

▲読み聞かせのコーナーの様子



かまぼこ板がラケットに！

11月15日(土)、長門農業者トレーニングセンターで「仙崎かまぼこ板つ球大会in長門湯本温泉プレ大会」が行われました。長門市の名産品のかまぼこと湯本温泉をPRし、参加者の交流を目的とするもので、仙崎かまぼこ板つ球大会実行委員会が主催しました。

種目はダブルスで、かまぼこ板をラケットとして使用。試合には50組が参加し、熱戦を繰り広げました。

実行委員会では、11月15日が「かまぼこの日」であることから、来年の11月15日(日)に本大会を開催する予定としています。

11月15日(土)、里山ステーション 仙崎でラーメンとお米と野菜たち at 俵山が行われました。これは、俵山地区担当の地域おこし協力隊員である小坂保成さんが、地域の野菜を活用して市内のラーメン店の協力を得ながら俵山ご当地ラーメンの開発を行い、試験

地元の新鮮野菜を知って

ラーメンとお米と野菜たち at 俵山

販売を行うものです。「限定150食」ということで、販売開始から店内はお客さんでいっぱいとなりました。

小坂さんは「地元の新鮮な野菜を知ってもらおうきっかけづくりとして提案した。にぎやかに良かった」と話していました。



▲地元野菜をふんだんに使ったラーメンが提供された



▲衣装やパフォーマンスでの審査もあるため、それぞれが工夫を凝らす